

2025 年 6 月 27 日

東京海上日動火災保険株式会社

小学校低学年向け「DAP(でいーえーびー)こうつうあんぜん授業」の展開

～ドライブレコーダーのデータを活用した新たな取り組み～

東京海上日動火災保険株式会社(取締役社長 城田 宏明、以下「当社」)は、全国の小学校低学年を対象に 25 年 7 月より、当社の通信機能付きオリジナルドライブレコーダー(以下ドライブレコーダー)が検知した車両の危険挙動等を活用して「DAP(でいーえーびー)*1 こうつうあんぜん授業」を展開します。本授業を通じて、未来を担う子どもたちの交通事故削減に貢献してまいります。

*1: 当社が個人向け自動車保険で提供している通信機能付きオリジナルドライブレコーダー「ドライブエージェントパーソナル」の略。

1. 背景

当社は、交通事故の削減に貢献したいという想いのもと、ドライブレコーダーにより取得・蓄積された走行データや衝撃データを活用した様々な取り組みを展開してまいりました。

具体的な取り組みとして、21 年 7 月の熱海市土石流災害での「DAP を活用した損害認定」や 24 年 1 月の能登半島地震での「地割れマップの提供」、衝撃データを活用した独自のアルゴリズム構築による保険金支払の早期化*2 等があります。

今回新たに、交通事故リスクの高い小学校低学年の子どもを対象として、契約台数 100 万台を超えるドライブレコーダーから収集した危険挙動・衝撃データを活用した「DAP(でいーえーびー)こうつうあんぜん授業」を展開いたします。

小学校低学年の中でも、特に 1、2 年生は入学を機に行動範囲が急速に広がる一方で、身長が低く車の死角に入りやすいため、警察庁のデータ*3によると全年齢の中で最も歩行中交通事故死傷者数が多く「魔の 7 歳問題」として社会課題となっています。

当社はこうした社会課題の解決を目指し、未来を担う子どもたちへの育成支援の一環として小学生を対象に実施してきた「みどりの授業」*4、「ぼうさい授業」*5に加えて、本授業を全国の小学校で展開してまいります。

*2: 2024 年 12 月 5 日 ドライブレコーダーのデータを活用した独自アルゴリズムの構築 ～全損事故における保険金支払の早期化を実現～ (https://www.tokiomarine-nichido.co.jp/company/release/pdf/241205_01.pdf)

*3: 2025 年 3 月 7 日 警察庁「令和 7 年春の全国交通安全運動の実施について(状態別年齢別死傷者数)」 (https://www.npa.go.jp/news/release/2025/R7harunoundou_koutuujikobunseki.pdf)

*4: 地球温暖化・生物多様性・津波や土砂災害軽減の効果を学び、自分たちにできる地球環境保護活動について考える授業。

*5: 地震や津波、水害の危険や対応方法を正しく理解し、いつ起こるかわからない災害に備える力を養う授業

2. 「DAP(でいーえーびー)こうつうあんぜん授業」の概要

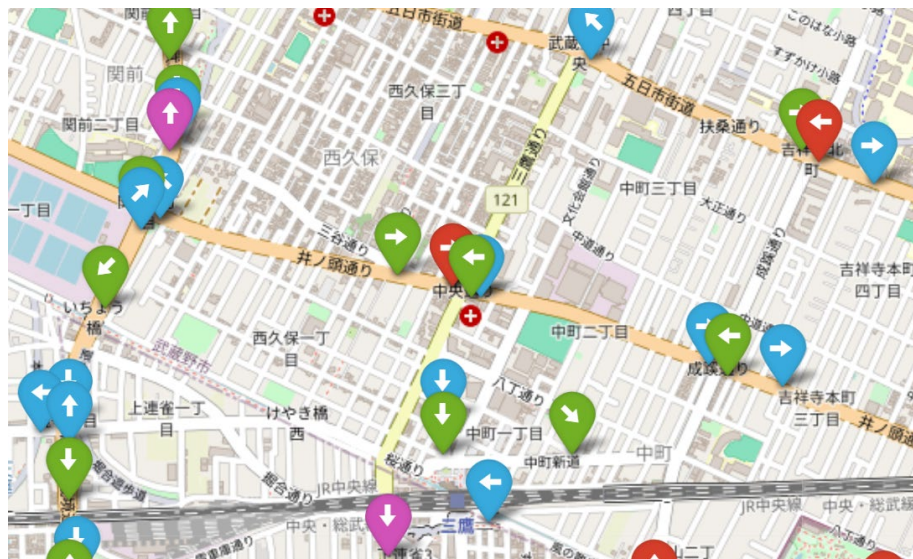
本授業は、ドライブレコーダーで検知した「急ブレーキ」「急アクセル」「急停止」等の危険挙動や、事故時の衝撃情報の多い地点を可視化した「通学路リスクマップ」を活用し、子どもたち自身で通学路の危険について考えるプログラムとなっています。

当社の全国約 17,000 人の社員が講師となり、交通ルールに関する講義やクイズに加えて、授業実施校周辺の通学路を題材に、子どもたちが「どこで・どのように・なぜ危ないのか」を自ら予測し、その要因や予防策について話し合います。

授業後には、オリジナルの修了証を配布し、子どもたちが家庭に持ち帰ることで、家族との交通安全に関する対話を促進します。

さらに、全国の DAP 契約者に対して、DAP 起動時に音声および端末画面上で「子どもの飛び出しに注意」といった注意喚起メッセージを発信することで、子どもとドライバー双方の交通安全意識の向上を図ります。

【通学路リスクマップの例】



ピンの色：車両の衝撃を検知した回数で危険度を4段階で示しており、青→緑→紫→赤の順で赤が最も危険度が高い。

ピンの方向：衝撃を検知した車両の進行方向を表している。

3. 今後について

当社は今後も日々蓄積されるドライブレコーダーのデータをもとに「通学路リスクマップ」をアップデートしながら、継続的な授業の実施を通じて子どもたちの交通安全意識の定着を図るとともに、ビッグデータや AI のさらなる活用を進めることで、社会全体の交通事故削減を目指してまいります。

以 上